

日清製粉グループ 連結決算、次期連結業績予想

[2019年3月期連結決算]

売上高 5,653億43百万円（前期比104.7%）
経常利益 320億62百万円（前期比100.8%）

㈱日清製粉グループ本社（社長：見目 信樹）の2019年3月期につきましては、雇用・所得環境の改善等により景気は緩やかに回復しましたが、一方で、米中貿易摩擦や中国経済の減速懸念等を背景として、景気は先行き不透明な状況が継続しました。

このような中、当社グループは、10年後、20年後の社会全体の構造変化を見据え、未来へのコンパス（羅針盤）として、長期ビジョン「NNI “Compass for the Future” 新しいステージに向けて～総合力の発揮とモデルチェンジ」を策定し、また、その通過点である2020年度を最終年度とする中期経営計画「NNI-120 II」の達成に向けた成長戦略の実行に取り組みました。その一環として、豪州全土で展開し、小麦粉等のマーケットリーダーとして確固たる地位を築いているAllied Pinnacle Pty Ltd.の買収、さらに、国内屈指の総合中食サプライヤーであり、全国的な生産拠点や幅広い生産ノウハウを有するトオカツフーズ株式会社の株式の追加取得を決定しました。

当期の業績につきましては、売上高は、国内製粉事業における小麦粉価格改定の影響やエンジニアリング事業における大型工事の進捗等により、5,653億43百万円（前期比104.7%）となりました。利益面では、カナダ及びタイの戦略投資による業務用小麦粉の出荷増、医薬品原薬の出荷増、エンジニアリング事業の順調な工事進捗に加え、全社を挙げてのコストダウン施策が寄与したものの、Allied Pinnacle Pty Ltd.の買収関連費用等の将来の成長に向けた戦略コストの発生により、営業利益は269億16百万円（前期比99.0%）となりました。経常利益は、受取配当金の増加等により、320億62百万円（前期比100.8%）と増益、親会社株主に帰属する当期純利益は、さらに投資有価証券売却益が加わり、222億68百万円（前期比104.4%）と増益となりました。

当期の配当につきましては、連結ベースでの配当性向の基準を40%以上とし連続増配により配当の上積みを図る基本方針のもと、当初の予想どおり、前期より3円増額の1株当たり年間32円を予定しております。

[2020年3月期連結業績予想]

2020年3月期の業績見通しにつきましては、本年4月に買収したAllied Pinnacle Pty Ltd.及び本年7月に連結子会社化を予定しているトオカツフーズ株式会社の業績を含めております。また、両社取得によるのれん発生額合計を670億円と想定し、その償却費（償却期間10年を想定）を織り込んでおります。さらに、両社のPMI費用や広告宣伝費、研究費、人件費等の将来に向けた戦略コストを織り込んだ結果、2020年3月期の業績見通しは、売上高は7,250億円（前期比128.2%）、営業利益は300億円（前期比111.5%）、経常利益は317億円（前期比98.9%）、親会社株主に帰属する当期純利益は233億円（前期比104.6%）としております。

なお、Allied Pinnacle Pty Ltd.の買収及びトオカツフーズ株式会社の連結子会社化に伴うのれん発生額につきましては、今後の資産評価等の結果により、現在の想定額から金額が変動する可能性があります。これに伴い業績見通しに修正がある場合は、適切に公表させていただきます。

次期の配当につきましては、上記の利益配分の方針を基準とし、当期よりさらに2円増額の1株当たり年間34円を予定しております。これにより、実質的に7期連続の増配となる予定であります。